

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520276

研究課題名(和文)合衆国の芸術文化政策・文化戦略とアメリカ舞台芸術実践のポリティクス

研究課題名(英文)Politics of Culture/Arts in American Performance Space

研究代表者

戸谷 陽子(Totani, Yoko)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：30261093

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：国家的な文化戦略や自治体・非営利団体等公共の芸術文化助成のあり方を、演劇実践活動の(美学的・政治的)な戦略との関係性において歴史的に再検討するという研究目的のもと、主に戦後の合衆国の芸術文化政策・外交文化戦略と、芸術活動の連動を明らかにすることで、この関係性をとらえなおし、舞台芸術論および現代アメリカ演劇史の文脈の中で、再度位置づけを試みた。今日の都市計画と連動した芸術文化政策の在り方を検証するための歴史的な文脈を確認した。

研究成果の概要(英文)：The study investigates the relationship between public policies of arts/culture and artistic decision made by artists and shows how politics of culture on the national/local levels affect artistic decisions by artists and producers as well as presenters in the field of non-profit art in order for them to secure financial support from public funding.

研究分野：パフォーマンス研究、アメリカ演劇

キーワード：NEA(全米芸術基金) NYSCA(NY州芸術カウンスル) BID(商工開発指定地区) 芸術文化政策
アートマネージメント アメリカ演劇 パフォーマンス研究

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、過去の研究においては主に現代アメリカの芸術文化政策とアーティストのポリティクスを個別に検証してきたが、1980年代以降顕著になった舞台芸術におけるポリティクスの意識の変遷を手がかりとして、二十世紀の歴史的、社会的文脈の中で、ポリティクスについて多角的に新たに見直し、総括する必要性を認識するに至った。

また、国家や公共機関が文化政策として規定する公共の概念と文化の意識という意味における文化ポリティクスの検証の必要性も確認されたことから National Endowment for the Arts (全米国家芸術基金、以下 NEA) を中心に舞台芸術と公共性の概念に見られるポリティクスの変化について科研費助成による研究を行い、国際演劇祭と前衛舞台芸術のマーケットビリティを調査し、資本主義世界における前衛舞台芸術の市場化について、IT の発展にともなう演劇システム地図の変化によりもたらされた新たな国境往来図が身体のポリティクスとコミュニケーションに及ぼす影響について考察するなどの研究を続けた。

この研究の成果のひとつは、アメリカにおける NEA を中心とした各種芸術助成金制度の概容と現状および問題点を把握できたことであり、舞台芸術の市場商品化と同時に前衛の周縁化が促進される構造が、80年代以降の資本主義先進国におけるネオ・リベラリズムの政治・経済政策と呼応・合致することを、ニューヨーク市および州当局の文化政策を例にとって具体的に確認した。

以上の研究で得た知見から、アメリカ演劇におけるリベラリズムや民主主義の概念について、歴史的に考察する必要性を認識し、「アメリカ演劇の理論と実践におけるリベラリズムと民主主義の問題：冷戦以降の再検討」という科研費研究を行った。近年冷戦期以降の演劇を検証したことで、国家の文化政策および助成金制度やアーティストをとりまく資金的な条件が、意識・無意識にかかわらず、有形・無形に彼らの芸術的選択や戦略を左右する大きな要因となってきたことが確認された。

そこで、本研究では、国家の文化戦略や自治体・非営利団体等公共の芸術文化助成のあり方の変遷を、まずは近代以降の演劇史の文脈の中で、芸術家個人の芸術的戦略やその選択との関係において再検討し、合衆国の経済および文化政策と演劇表象の関係をとらえなおす作業を中心に進めることとした。

2. 研究の目的

本研究の目的とは、アメリカ合衆国舞台芸術の理論と実践における、ポリティクスの諸問題についての研究の一環として、国家的な文化戦略および自治体・非営利団体等公共の芸術文化助成のあり方を、演劇実践活動の(美学的・政治的)な戦略との関係性におい

て歴史的に再検討し、合衆国の芸術文化政策・外交文化戦略との運動を明らかにすることで、この関係性をとらえなおし、舞台芸術論および現代アメリカ演劇史の文脈の中で、再度位置づけを試み、今世紀の展開を標榜するための新たな学術的指標を提示することにある。

3. 研究の方法

アメリカ演劇の具体的な作品・作家および舞台芸術環境の検証と、理論的な言説の把握と二つの視点から、国家の文化戦略や自治体・非営利団体等公共の芸術文化助成のあり方の変遷を、まずは近代以降の演劇史の文脈の中で、芸術家個人の芸術的戦略やその選択との関係において再検討し、合衆国の経済および文化政策と演劇表象の関係をとらえなおす作業を中心に進めることとした。具体的には、4年間の研究期間の年度ごとに、「近代演劇における公共性の概念の成立と芸術概念」「国家の芸術助成と文化政策：連邦演劇プロジェクトと全米芸術基金」「外交政策としての芸術助成と教育政策における演劇」の3本の柱を立て、おおむねこれに沿って1年ごとに各柱を中心に調査・研究を行い4年目には「芸術文化政策と芸術戦略 (Artistic Choice) の関係性」として現代アメリカ合衆国舞台芸術における意識の分布図の変化を考察、総括する計画を立てた。

研究方法は、文献収集・研究、資料収集・分析を行う基礎文献研究と、資料収集のための調査およびインタビューなどを行い、分析する実地調査からなる。その際、研究代表者がもつ海外(主に合衆国)の研究者および演劇実践家(劇作家・演出家・俳優・デザイナー・プロデューサー・プリゼンター等)とのネットワークを活かし、積極的に学术交流の場をもつことを心がけることとした。

4. 研究成果

平成24年度はとくに「近代演劇における公共性の概念の成立と芸術概念」のテーマに沿って、主に歴史的な背景を確認しつつ、基礎研究を進めた。ピューリタン国家として長らく公の演劇が禁じられていた合衆国連邦の独立後、国民国家の文化装置として演劇がどのように要請され位置づけられたか、人口増加や都市の拡大にともなう大衆娯楽の要請と、中産階級の教養として求められた芸術(演劇)価値観の成立について、具体的には19世紀末から20世紀初頭にかけて、全米の興行権を独占した興行主団体「シアトリカル・シンジケート」の台頭と、その利益追求を批判した批評家の言説や、中産階級の観客が中心の観劇啓蒙団体「ドラマ・リーグ」設立について、基礎研究を行った。その際「正統な」(legitimate)という語をキーワードに当時の演劇の価値基準を規定した、この団体の勧める観客の受容の在り方についても確認し、中産階級の娯楽が合衆国内で定義さ

れてゆく過程を検証し、基礎研究を行った。

平成 25 年度は「国家の芸術助成と文化政策：連邦演劇プロジェクトと全米芸術基金 (NEA)」のテーマに沿って、大恐慌の時代から第二次大戦を経て NEA 設立に至るまでの、国家が介入した演劇のプロジェクトとその文化政策 (戦略) について検証した。アメリカ現代演劇の代表的な劇作家アーサー・ミラーも、テネシー・ウィリアムズも若い頃 (1930 年代) に連邦政府の芸術助成を受けて作品を制作しているが、この連邦政府の助成 (Federal Theatre Project) の成立過程と、ミラーやウィリアムズらの一次資料から、これらの制度に関連する言説を検証し、彼らが当時大陸から受けたモダニズム演劇の影響を合衆国の地に昇華させようと実験したかを考察した。さらに、第二次大戦後に設立された全米芸術基金の成立過程を検証し、この基金の影響力および戦後の合衆国芸術文化政策と、実際に助成を受けた作品や作家について調査した。

平成 26 年度は「外交政策としての芸術助成と教育制度における演劇」：のテーマに沿って、第二次大戦から戦後のアメリカ合衆国の外交政策と芸術助成および文化政策を検討した。NEA の設立と並行して、戦後民間で促進した文化外交に焦点をあて、まず、ヨーロッパへの派兵の際、トルーマンドクトリンの一環として欧州にもたらされた文化を検討し、大西洋兩岸の文化交流を、美術史をも視野に入れつつ、検証した。また第二次大戦の終結と東西冷戦の開始にともない、アジアと友好関係を結ぶこと太平洋以西の覇権を強化するという外交政策をとった合衆国の対アジア文化政策を具体的に検証することを目的に、日米友好基金やフルブライトの人的交流とその成果を確認し、これらの助成金や奨学金の交付の傾向を調査した。また、同時期に始まった民間団体の助成 (アジア文化財団、ロックフェラー財団、アジアソサエティ等) についても基礎調査を行い、合衆国が冷戦期に実行した文化外交がどのような芸術・文化の価値観を醸成したかについて、さらに調査をする必要が生じた。

一方で、全米に 2500 あるといわれる、大学の演劇学科を中心とした、高等教育の場での演劇実践教育の検証に着手した。加えてリージョナルシアターと呼ばれる非営利の地方劇場の中で展開し制度化していった演劇についても芸術文化政策の視点から検証する予定であったが、訪問調査はまだ行っていない。

平成 27 年度の計画では「文化政策と芸術価値基準 (Artistic Choice) の関係性」というテーマで、NEA と現在の芸術助成金の実態を検証する予定であったが、本務の業務が多忙になったために 28 年度まで研究期間を延長し、28 年度にわたり研究を行った。公的基金に関しては、その活動・使命・選抜基準などを調査し、またアーティストに関しては、

基金と作品との関わり・影響関係を中心に調査した。公的基金・助成金に関しては、国家芸術基金 (NEA)、ニューヨーク州芸術カウンシル、マッカーサー基金などについて情報を収集した。また、主にセクシュアリティの問題を扱うパフォーマンスアーティストらの活動、マッカーサー受賞者リー・ブルーアー、またたとえばロバート・ウィルソンら基金獲得のポリティクスにたけているといわれるアーティストらの活動内容と思想および意識の関わりを辿る作業を行った。

以上、本研究では、国家的な文化戦略や自治体・非営利団体等公共の芸術文化助成のあり方を、演劇実践活動の (美学的・政治的) な戦略との関係性において歴史的に再検討するという研究目的のもと、主に戦後の合衆国の芸術文化政策・外交文化戦略と、芸術活動の連動を明らかにすることで、この関係性をとらえなおし、舞台芸術論および現代アメリカ演劇史の文脈の中で、再度位置づけを試み、今日の都市計画と連動した芸術文化政策の在り方を検証するための歴史的な文脈を確認した。

本研究の特色は、常に上演を念頭に舞台芸術を分析・研究する方法論と、舞台芸術における文化に対する意識と戦略を考察するという問題意識をもつ点である。日本語の政治性とはやや異なるが、政治意識・政治的身振り・政策、すなわちポリティクスは、文化の表出と不可分であり、欧米においては社会学およびパフォーマンス研究の分野を中心に研究が進められている。わが国では、この点に着目して、文化に見られる権力と支配の構造を明らかにしようという試みは、少なくともアメリカ演劇研究の分野では活発になされているとはいいがたく、戯曲中心の演劇研究が主流である。また、ここ 20 年ほどで文化政策や文化マネジメントについての研究は進展したが、多くはマネジメントのノウハウが主目的であり、国家としての文化戦略やグローバル資本主義と文化システムといった問題を視野に入れた総括的な舞台芸術論は未だない。しかしながら近年加速しつつ複雑化するグローバリゼーションの問題を、政治・経済・文化の連動するシステムという、より大きな文脈において検証・分節化・理論化することは、今日的な文化論の展開に不可欠であり、本研究により、文化と芸術 (演劇) の関係を「ポリティクス」をキーワードに明らかにすることにより、ひとつの概念枠として採用することが有効であると確認したことは本研究の成果のひとつであるといえる。芸術領域と政治的・社会的・経済的問題意識の関わりという極めて今日的な文化論の展開のための概念枠としてさらに検証を続けたいと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

戸谷陽子「戦後アメリカ前衛演劇の軌跡」
artissue 第3号、p.2 (2014年9月)

〔学会発表〕(計 1件)

戸谷陽子「NYブロードウェイ劇場街の変遷、
80、90年代におけるNY市による文化政策と
改革、その後の影響、現在の発展について」
第三回 都市と文化・クリエイティブ産業研
究委員会、2016年12月14日、森記念財団大
会議室・東京都港区・虎ノ門37森ビル

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戸谷 陽子 (TOTANI, Yoko)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：30261093

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()